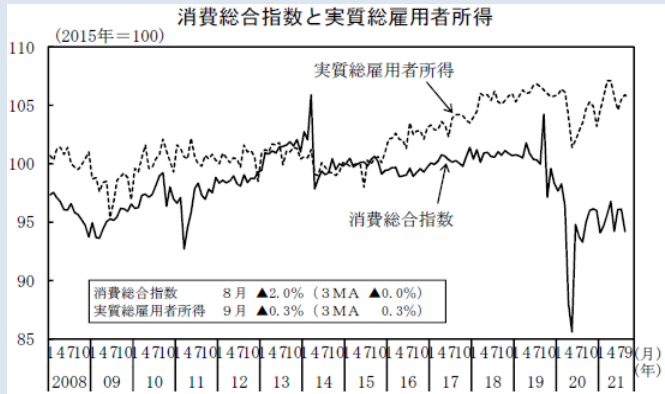


月例経済報告（2021年11月）

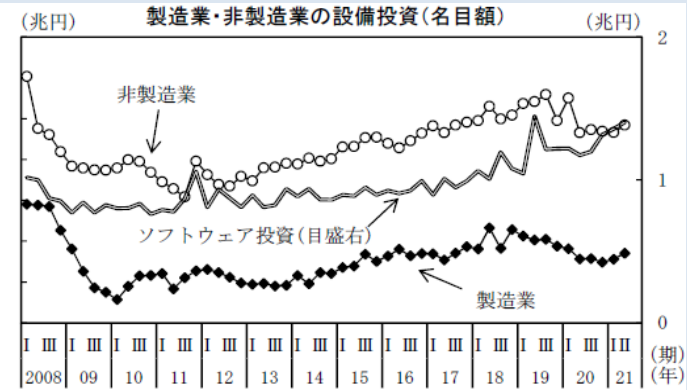
● 月例経済報告（11/25）

基調判断	(11月) 景気は、新型コロナウイルス感染症の影響による厳しい状況が徐々に緩和されつつあるものの、引き続き持ち直しの動きに弱さがみられる。 経済社会活動が正常化に向かう中で、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、供給面での制約や原材料価格の動向による下振れリスクに十分注意する必要がある。また、感染症による内外経済への影響や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。
	(10月) 景気は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、そのテンポが弱まっている。 感染対策を徹底し、ワクチン接種を促進するなかで、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、内外の感染症の動向、サプライチェーンを通じた影響による下振れリスクの高まりに十分注意する必要がある。また、国内外の感染症の動向や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。

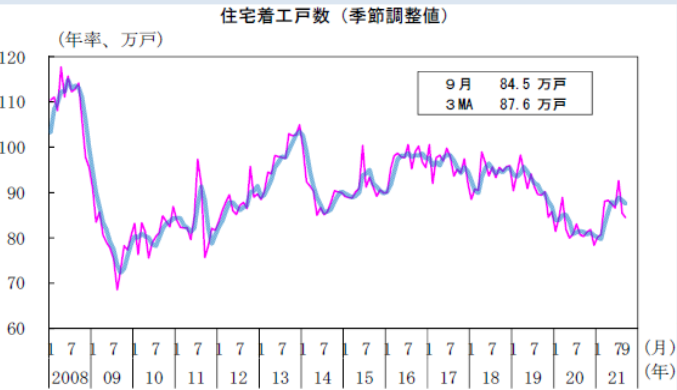
個人消費	(11月) <u>一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる。</u>
	(10月) 弱い動きとなっている。



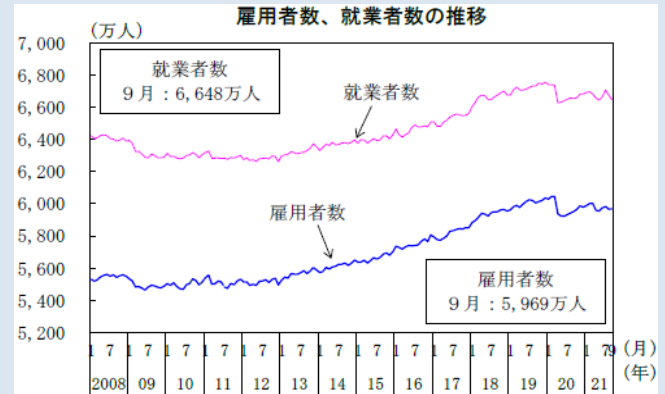
設備投資	(11月) 持ち直している。
	(10月) 持ち直している。



住宅建設	(11月) このところ持ち直しの動きがみられる。
	(10月) このところ持ち直しの動きがみられる。



雇用情勢	(11月) 感染症の影響が残る中で、弱い動きとなっているものの、求人等の動きに底堅さもみられる。
	(10月) 感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人等の動きに底堅さもみられる。



<p><b>生産</b></p>	<p>(11月) <u>持ち直しに足踏みがみられる。</u></p> <p>(10月) このところ一部に弱さがみられるものの、持ち直している。</p>	<p>鉱工業生産・出荷・在庫・在庫率の推移 (2015年=100)</p> <p>このグラフは、2009年4月から2021年4月までの鉱工業生産、出荷、在庫、および在庫率の推移を示しています。縦軸は2015年=100で、左側は70から120、右側は80から160まで表示されています。生産（目盛右）は概ね100前後で推移し、出荷（目盛右）は100前後で推移し、在庫（目盛右）は100前後で推移し、在庫率（目盛右）は100前後で推移しています。2020年4月の予測調査は、生産が100前後、出荷が100前後、在庫が100前後、在庫率が100前後と予測されています。</p>																								
<p><b>輸出</b></p>	<p>(11月) <u>おおむね横ばいとなっている。</u></p> <p>(10月) 増勢が鈍化している。</p>	<p>地域別輸出入数量指数 ①輸出 (2015年=100)</p> <p>このグラフは、2008年9月から2021年4月までの地域別輸出入数量指数を示しています。縦軸は2015年=100で、50から180まで表示されています。全体、アジア、アメリカ、EUの指数が示されています。右側の表は以下の通りです。</p> <table border="1"> <tr> <td>全体</td> <td>10月</td> <td>+2.6%</td> </tr> <tr> <td>3MA</td> <td></td> <td>▲2.1%</td> </tr> <tr> <td>アジア</td> <td>10月</td> <td>▲1.6%</td> </tr> <tr> <td>3MA</td> <td></td> <td>▲2.2%</td> </tr> <tr> <td>アメリカ</td> <td>10月</td> <td>+10.0%</td> </tr> <tr> <td>3MA</td> <td></td> <td>▲3.7%</td> </tr> <tr> <td>EU</td> <td>10月</td> <td>+4.6%</td> </tr> <tr> <td>3MA</td> <td></td> <td>▲0.4%</td> </tr> </table>	全体	10月	+2.6%	3MA		▲2.1%	アジア	10月	▲1.6%	3MA		▲2.2%	アメリカ	10月	+10.0%	3MA		▲3.7%	EU	10月	+4.6%	3MA		▲0.4%
全体	10月	+2.6%																								
3MA		▲2.1%																								
アジア	10月	▲1.6%																								
3MA		▲2.2%																								
アメリカ	10月	+10.0%																								
3MA		▲3.7%																								
EU	10月	+4.6%																								
3MA		▲0.4%																								
<p><b>国内企業物価</b></p>	<p>(11月) 上昇している。</p> <p>(10月) 上昇している。</p>	<p>企業物価の推移 (2015年=100)</p> <p>このグラフは、2008年4月から2021年4月までの企業物価の推移を示しています。縦軸は2015年=100で、95から110まで表示されています。輸入物価（目盛右）、輸出物価（目盛右）、国内企業物価（参考指数、消費税抜き）が示されています。国内企業物価は概ね100前後で推移し、輸入物価は100前後で推移し、輸出物価は100前後で推移しています。</p>																								
<p><b>消費者物価</b></p>	<p>(11月) 底堅さがみられる。</p> <p>(10月) このところ底堅さがみられる。</p>	<p>消費者物価の推移 (2020年=100)</p> <p>このグラフは、2010年4月から2021年4月までの消費者物価の推移を示しています。縦軸は2020年=100で、93から101まで表示されています。総合、生鮮食品を除く総合、生鮮食品及びエネルギーを除く総合（破線）、生鮮食品及びエネルギーを除く総合（政策等による特殊要因を除く）（太線）が示されています。総合は概ね100前後で推移し、生鮮食品を除く総合は100前後で推移し、生鮮食品及びエネルギーを除く総合（破線）は100前後で推移し、生鮮食品及びエネルギーを除く総合（太線）は100前後で推移しています。</p>																								
<p><b>海外経済</b></p>	<p>(11月) <u>世界の景気は、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が緩和される中で、持ち直している。</u> 先行きについては、持ち直しが続くことが期待される。ただし、供給面での制約や原材料価格の動向による下振れリスクに留意する必要がある。また、感染の動向や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。</p> <p>(10月) 世界の景気は、新型コロナウイルス感染症の世界的大流行の影響により、一部で依然として厳しい状況にあるが、持ち直している。 先行きについては、持ち直しが続くことが期待される。ただし、供給面での制約や原材料価格の動向による下振れリスクに留意する必要がある。また、感染の動向や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。</p>																									